

平成 25 年 11 月

猪鍋を食ふ山小屋の武者震ひ  
吾亦紅塀があるから覗くなり  
秋思かな愁てふ字を分解の  
曖昧も生きる知恵なりけむり茸  
自然薯に拘つてみるとろろ汁  
神の留守悪知恵使ふは今でしょう  
手酌して自分に勤労感謝の日  
なにもせぬことの豊かさ小春の日  
少年の早口言葉冬めける  
枯芒昭和のごとく褪せてゐる